

お田植え感謝の夕べ

～灯そう千枚田～

四谷の

千枚田だより



第154号



六月四日、第十一回「お田植え感謝の夕べ」灯そう千枚田を保存会主催・連谷公民館、区民共催・ふるさと指導員協力で開催した。

この催しは昨年まで連谷お助け隊の行事として行われてきたが、十年をひと区切り、その、功績を無にするには偲び難く、保存会が引き継ぐ事となった。

七時開演 開催にあたり会長は現在、全国あちこちの棚田でキャンセル流行りであるが連谷お助け隊はサミット開催の翌年(平成十八年)から毎年実施してきており、全国の

棚田の灯火のルーツでもある。また、入梅にも拘わらず、勢いで一回も雨を寄せ付けなかったことも郷土愛、信念の賜物と評価する。その、榮えある歴史を継承することには大きな意義がある。ましてや地域の核である連谷小学校も閉校になり、抛り

どころが失せてしまった。その抛りどころとして「四谷の千枚田」を中核に保存会、連谷公民館、地域の皆さん共々、本日開催の「お田植え感謝の夕べ」灯そう千枚田を試行的に開催、参加者の皆さんとゆったり、ほっとりと楽しんでいただき来年も、再来年も続けていけたら幸いと、挨拶した。

この、催しに国会議員の鈴木克昌様、今枝宗一郎様、新城市長穂積亮

次様、孝子夫人、新城市議会議長下江洋行様、地元市議会議員柴田賢治郎様方々には訪れる順に挨拶を頂いた。どの先生方も千枚田を守る姿勢と地域の皆さんに敬意を表し、異口同音に「何でも相談にのる」と断言していただいた。

・・・何でも相談に乗る・・・と急に言われてもお願いできないのが田舎者の我々でもある。

会場では名古屋を活動拠点とするギター奏者「紫月」さんの特別演奏が催しに華をそえた。

公民館役員が丹精込めた焼肉、焼きそば、また、超人気の猪肉の串焼きは大好評であった。棚田っ娘の自慢の五平餅も完売。保存会の大はそり三杯のシシ汁も大好評であった。

段々田んぼの作業道(景観道)に幻想的に灯る千本のロウソクの光と天空を華どる打ち上げ花火、田んぼを飛びかうホタルの演出には三百人を超す参加者の誰しも感動、安堵感を得たことと思つてやまない。

終演にあたり原田英寿連谷公民館長はこの催しが地域一体となり盛大に行われたことを喜び、公民館活動、地域活性に繋がる催しになることを願う思いで結んだ。

今年も、閉会と同時に待ちかねたように雨が降り、沿道に並ぶロウソクの灯かりを見事に消してくれた。

四谷の千枚田で代かき・田植え
 連谷小が今まで作っていた田んぼは本年度から統合した鳳来寺山の五年生が担当する。

五月十三日、泥だらけになりながら「代かき」を行い、五月十七日はスクールバスで田植えに出かけました。小山さんの指導のもと、等間隔にていねいに苗を植えていきました。三枚の田に植えた苗の生長が楽しみです。これからも千枚田へ出かけていきます。(山百合より)



この日は東海テレビ「スイッチ」の生放送があり、「僕たちも出ちゃったんだ」と自慢げであった。

中部小野外学習

五月二十五日、市立中部小五年生四十名は恒例になった四谷の千枚田で自然観察、歴史、文化を学んだ。

子供たちは棚田を見るなり、スツゲと感嘆の声をあげた。

田んぼには自然再生を計ったヤマアカガエルのオタマジヤクシやイモリの多さに大はしゃぎ、千五百年前は設楽海という海であったことや十王堂伝説の説明に興味深々であった。

野外学習会

六月五日、鳳来寺山自然科学博物館主催「四谷の千枚田で生き物を観察しよう」が行われた。この観察会には連谷小学校にも



赴任されていた水谷英夫先生と(舜)を講師に四十名が参加した。

千枚田は、鞍掛山から湧き出す水を水源とし、その湧き水には昆虫やそれを餌にする両生類、爬虫類、鳥類が集まる。今回の学習会では千枚田に移植、自然再生されたモリアオガエルの卵塊や多様性に富んだ生き物が多く観察された。

エコツアー

六月十日、エコネット安城の会員は自然環境活動、勉学の一環として河川部会のメンバー二十二名が千



枚田を視察。自然再生された田んぼの生き物の多さと、その波及効果等(自然の摂理)を学ぶ事が出来た。と大変喜ばれた。

景観・環境整備

保存会は春と秋の二回、千枚田入口付近とふれあい広場の草刈り作業を行っている。今回は「灯そう千枚田」を視野に五月二十九日に実施した。

ラッピングバス「山の湊号」

新東名高速道路の新城IC開設を機に新城市は七月一日から豊鉄バスに委託し、新城駅南口〜長久手古戦場駅まで一時間三十分を平日三往復、土・日二往復する。この、「山の湊号」には千枚田の実りの秋がラッピングされる。



行 平成二十八年六月二十日
 鞍掛山麓千枚田保存会
 発 文責 小山舜二